



ナイアガラの滝で

法学部

や	る	気	
応	援	奨	
奨	学	金	

vol.121

Report

# カナダの治安と更生制度を研究 トロントへの語学留学

法学部法律学科3年 <sup>えんどう</sup>遠藤 <sup>じょうし</sup>文司  
(私立中央大学附属高校)

## はじめに

私は、2015年夏、8月から9月の1カ月間、「やる気応援奨学金」の海外研修部門を利用して、カナダのトロントへの短期語学留学をしました。「やる気応援奨学金」の海外研修部門では、語学力の向上という目標を念頭に置き、自分で設定したテーマについての活動をする事ができます。私は、テーマをカナダの治安と更生制度というものに設定しました。留学自体は、1カ月でしたが、事前調査や事後報告を含めると活動期間は半年に及びます。その期間、さまざまな工夫を凝らして、自分の将来と向き合うことができました。

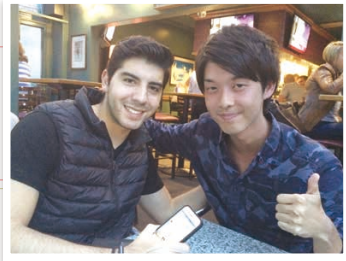
## テーマと活動国について

日本は、諸外国と比べて「治安がいい」と言われています。治安がいいと一言で言ってもその要素はさまざま、その中に刑務所を出所した人々が再び罪を犯さないという要素があります。日本では、出所者の再犯率が上昇しているというニュースを見ました。その時、私は「なぜ上昇しているのか」「諸外国はどうなのか」という疑問を抱きました。その疑問をもとに事前調査を行ったところ、カナダは、更生プログラムの先進国であることを知りました。

## トロントの魅力

カナダは、受刑者に対してさまざまな更生プログラムを実施し、特定の分野では成果が出始めているというデータもありました。そのため、日本との比較の中でカナダの治安や更生制度について研究することをテーマにしました。

カナダに決めた理由として、トロント警察の情報発信力に魅力を感じたという点もありました。カナダには、The International Day Of Pink と呼ばれるいじめや差別防止の啓発イベントがあります。そのイベントは、毎年4月の第2水曜日に開催され、人々がピンクのシャツを着て、差別やいじめ防止を啓発しようというものです。2015年度は、ある警察官が、ピンクのシャツを着るだけでなく、自分の髪をピンクに染めて勤務する姿をツイッターに投稿するということがありました。この行動が、勇気ある行動としてツイッターでリツイートされ、多くの反響を呼びました。そして、彼に続き、多くの警察官がピンクのシャツを着て、イベントへの賛同を表明しました。私は、その行動力に衝撃を受けました。また、そういった情報発信力は、日本の警察にはないと思いい、トロント警察に興味を持ち、留学先にしました。



仲良くなったメキシコ出身の友人と



協力していただいた警察官と記念撮影



語学学校の仲間たちと帰国前に

## 語学学校

語学学校では、とにかく多くの人と話し、自分を英語漬けにしようと努力しました。私の弱点は、スピーキングで似たようなフレーズしか使うことができないことでした。そのため、私は、現地で先生が使うフレーズをまねしていました。それらを会話に取り込むことでフレーズを増やすことができました。それらをここぞという時に使い、その後自分なりに文を付け加えて、意見を主張できるようにしていました。

## テーマに関する活動

放課後はテーマの活動に時間を費やしました。まず、トロントの警察官へのインタビューをしました。専門用語が多くあったため、あらかじめ文書を用意していききました。それでも難しい部分もありましたが、親切に分かるまで説明してくれました。トロント警察では、自転車パトロールの警察官にカメラを搭載して証拠や事故防止に活用していること。日本とは違い、犯罪発生地域に密着したホットスポットパトロールについてなど。多くのことを学び、日本でも活用できるものがないか検討できる材料となりました。

また、カナダには出所者の活動を支

えているボランティアが複数ありますが、その団体へインタビューができなかったため、トロントの図書館を利用して調査しました。そこでは多くの資料や文献に目を通すことができました。その中である更生プログラムを見付けました。それは、Circles of Support and Accountability というプログラムです。カナダの市民ボランティアや専門家が、出所者の指導や支援をする活動です。これは、出所者が自立して地域社会にしっかりと戻ることを目的としています。具体的には、研修を受けた市民ボランティアが、複数名で1人の出所者の相談に乗り、継続的な支援をしていきます(内側の輪)。そして、その市民ボランティアを複数名の専門家が支えます(外側の輪)。このような2重の輪で出所者を支えていくスタイルです。出所者にとっては、味方である相談役が多く、社会的に支えられていることを自覚できます。一方で、複数名の市民ボランティアで出所者1人を支えているため、1人1人の負担は軽減されます。このように社会全体で更生に携わる制度の運用が進んでいることが分かりました。

## 私の将来の夢

今回の活動は、将来の夢と向き合う

絶好の機会となりました。私は、将来、警察官になりたいと考えています。警察官には、法律に加え犯罪に関する知識が求められます。そして、安全な社会を作るためには、海外を見据えた広い視野も必要になります。私は、大学で防犯・犯罪捜査・更生という3つの視点からさまざまな活動をしていこうと考えていました。今回は、日本とカナダの更生制度を比較することで、「更生」という面の学びを深めることができました。今後は、ほかの視点からも果敢に挑戦していこうと考えています。

## おわりに

「やる気応援奨学金」のいいところは、やりたいことを先生方に見ていただし、ご指導いただけるということです。大学生活では、なかなかそういった機会は少ないです。そのような中で、この「やる気応援奨学金」は、先生方からのサポート体制が充実しています。私は、この「やる気応援奨学金」で本当に有意義な経験ができました。とても1人では、成し遂げることでできない経験でした。最後になりますが、日頃から「やる気応援奨学金」を支えてくださっている方々、ご指導いただいた先生方、いつも応援してくれている両親に心より感謝申し上げます。